POPCOM 1 月号(第12巻第 1 号)付録　平成 6 年 1 月 1 日発行(毎月 1 日発行)
昭和58年10月 3 日第 3 種郵便物認可

POPCOM1月号
第2付録

TOP SECRET MISSION POSSIBLE!?

秘密指令 年末ハード購入計画

私が愛したコンピュータ

美しきパソコンたち

486はCPUの番号

買うのはコレだ！



INDEX

STAFF

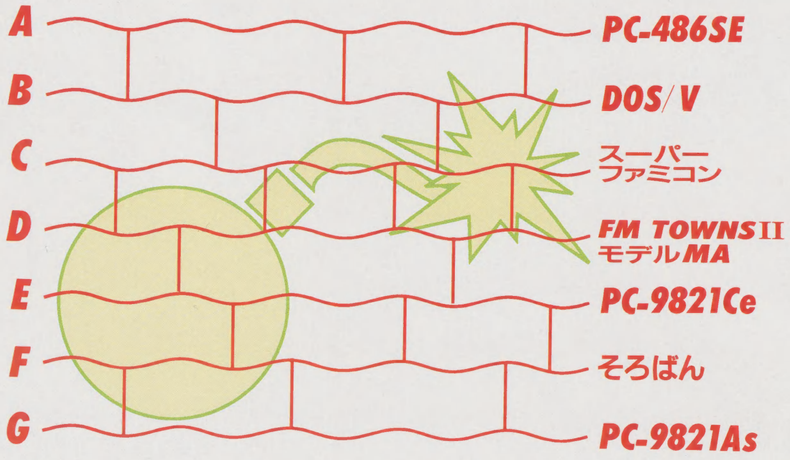
ライター	こぉたん／シモンまこと／溝口ひろみ
カメラ	佐々塚啓介
デザイン	ジェームス大椭（東京スキップスタジオ）
プロデュース	マッド寿
協力	NEC／エプソン／富士通／日本IBM／コムパック／デルコンピュータ

迷えるキミに

パソコン選択あみだくじ

別冊を読んで、なお機種選択に迷ってるキミ。あみだくじでスパっと決めよう！

使い方　あみだくじの好きなところに、縦線を２本引いてください。A～Gのうち好きな記号を１つ選んで、さあトライ！



ニッポンの主流派

PC-98シリーズ
NEC & EPSON

世の中、世界標準とかマルチメディアだとか騒がれてるけれど、国内じゃまだまだこのマシンが強い。新機種も充実して、あらゆるニーズに応えてくれるぞっ!

新機種続々登場! 充実のラインナップ

486搭載機を思い切った低価格で発表したエプソン。悔しい思いをした人も多いだろうね。こうなると、本家NECも黙っているわけにはいかない。11月10日に新製品を発表し、そのラインナップを確固たるものにしたのだ。

選択の幅が広がるのはうれしいけれど、いざ購入する段になって、どのマシンを買えばいいのか悩むことになりそうだ。そんなキミのために、POPCOMが独自の基準で(独断ともいうケドね)判断したオススメ機種を紹介していこう。

ひとくちにマシンを購入するといっても、その使用目的はさまざまだろう。その点も心配ご無用。多方面から十分に吟味して、推薦できる機種を絞り込んでみたので、初心者でも安心だね。

さぁ、まずは代表的な機種を3つセレクトしてみようか。

コレでOK POPCOM推薦98シリーズ



安さならコレッ!

PC-486SE

●エプソン
158,000円

とにかく安い! 25MHzの486を搭載していてこの値段というのは驚異的だ。しかも、NECのFELLOWにはないFM音源も標準装備してるから、お得ね。

AVならコレッ!



PC-9821Ce

●NEC
378,000円(ディスプレイ付き)

CD-ROMやディスプレイが初めから用意されているし、256色にも対応している。速度的にも納得のいく、オールラウンドプレイヤーの名にふさわしいマシンだ。

性能ならコレッ!



PC-9821As2

●NEC
328,000円〜

98MATEの主軸となったAsの後継機。ハードディスクモデルには、1677万色表示のできるウィンドウアクセラレーターボードが標準装備されているのも興味深い。

元祖 NEC

ニューモデルが発表になったばかりの、NEC98シリーズ。ノートタイプや省スペース型も出たけど、興味の対象は、やっぱりデスクトップ型。FELLOWやMATEの後継機は、利用目的に合わせてさらに細分化された。価格も機能も、天と地ほどの差があるぞ。さて、キミは高機能派かな？　それとも低価格派かな？

新しい98は、高性能低価格化を実現した

今回発表になったのは、MATEシリーズからの直接の後継機となる「MATE A」シリーズと、機能を制限することで低価格化を図った「MATE B」シリーズ。それに、「FELLOW」シリーズの新機種と、3つのシリーズに分けることができる。

「MATE A」シリーズは、従来のMATEの機能はそのままに、さらなる高性能化が進められている。たとえば、搭載メモリーが5.6Mバイト（上位モデルでは7.6Mバイト）に増え、最大71.6Mバイト（上位モデルでは73.6Mバイト！）まで増設可能だ。また、ハードディスクモデルには『MS-Windows3.1』とウィンドウアクセラレーターボードが標準で用意され、Windows上では同時に1677万色というフルカラー表示ができる。最上位モデルには国内最高速のアクセラレーターボードが使用されていて、その速度は従来機の2.4倍にもなるんだ。

廉価版の「MATE B」シリーズは、FM音源やWindows外での256色モードなどが省略されている一方で、全機種がハードディスク内蔵になり、ウィンドウアクセラレーターと『Windows3.1』が組み込まれ、1677万色が使用可能となった。また、メモリーも標準で5.6Mバイト（最大35.6Mバイト）。価格は26万円台からと、ビジネス用途なら魅力的。

「FELLOW」は、9801シリーズの流れをくんだシリーズだ。従来機よりも低価格化が進み、66MHzの486DX2を使用した最上位モデルでも40万円を切っている。

全体を通してみると、全機種ともローカルバスを使用し、グラフィックやテキストの表示速度が上がっている一方、価格が下がっているのが特徴だ。

MATE Ap2･As2

Pentiumオーバードライブ･プロセッサーにも対応しているので、速度面では問題なし。グラフィックや拡張性にも不安はない。Windowsのためには若干メモリーが少ない気もするが、実用的には問題なし。

速度――A
グラフィック――A
メモリー――B
拡張性――A
価格――C



FELLOW

Windowsや256色表示が必要ないのであれば、文句なくおススメ。BS2やBX2は、オプションのODP（オーバードライブ･プロセッサー）をつければ、速くすることも可能だ。ただし、FM音源は別売。

速度――B
グラフィック――C
メモリー――B
拡張性――A
価格――A



MATE Bp･Bs･Be

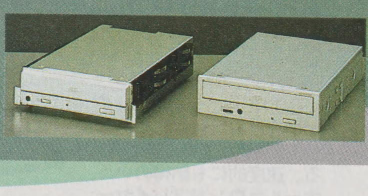
詳しくは次のページで述べるが、グラフィック面で9821としては致命的な弱点を持っている。あとから拡張することもできないので、購入を考えている人は十分に気をつけよう。これだけが唯一にして最大の問題点だ。

速度――A
グラフィック――D
メモリー――B
拡張性――D
価格――B



周辺機器も充実

今回新たに発表されたのは本体ばかりじゃない。ディスプレイや内蔵ハードディスク、倍速CD-ROM、拡張用メモリーなど、周辺機器も数多く発表されている。そのすべてを紹介することはできないけれど、どれも従来のものよりも安くなってきている。とくに、フォトCDにも対応したCD-ROMユニットは、ソフト4本をセットにしたものが期間限定で発売され、別々に買うよりも4割近くお買い得になっているぞ。



忘れちゃいけない AVパソコン PC-9821Ce

98MULTi



ディスプレイからCD-ROMまでオールインワンタイプのマシン。必要な機能はすべて有しているのが心強い。25MHzの486SXはODPにも対応してるし、256色表示もできる。最大メモリーが14.6Mバイトと少なめなので、Windowsには不安かも。

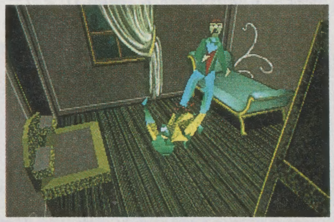
速度	C
グラフィック	C
メモリー	C
拡張性	C
価格	B

MATEで9821用ソフトが動かない!?

最近になって、「9821用」として発売されるソフトが増えてきた。9821ユーザーにはうれしい限りだよね。ところが、これから9821、それもMATEのユーザーになろうとしている人には、ここに大きな問題点が生じてしまう。

現在流通している9821用ソフトは、ほとんどが256色モードを使用しているんだけれど、今回発表になった「MATE B」シリーズの256色モードは、今までのMATEと互換性がないのだ！　急きょ、各ソフトハウスに問い合わせてみたところ、アローマイクロテックスの『アローン・イン・ザ・ダーク』を始め全滅状態だった。

今後、対応するソフトハウスは増えるかもしれないが、現状では「MATE B」は待て、といわざるをえない。



98ニューモデル主要スペック

SPECIFICATIONS

	フロッピーディスクモデル			ハードディスク内蔵モデル		
	BX2 /U2・/M2	BS2 /U2・/M2	BA2 /U2・/M2	BX2 /U 7	BS2 /U 7	BA2 /U 7
CPU	486SX(25MHz)	486SX(33MHz)	486DX2(66MHz)	486SX(25MHz)	486SX(33MHz)	486DX2(66MHz)
メモリー	1.6Mバイト (最大17.6Mバイト)	3.6Mバイト (最大19.6Mバイト)		3.6Mバイト (最大19.6Mバイト)		
グラフィック	640×400ドット　4096色中16色			640×400ドット　4096色中16色		
ハードディスク	オプション			120Mバイト		
フロッピーディスク	2ドライブ（M2モデルは5インチ）			1ドライブ		
拡張スロット	3			3		
値段	17万8,000円	23万8,000円	33万8,000円	23万8,000円	27万8,000円	37万8,000円
	（M2モデルはそれぞれ1万4,000円高）					

＊ディスプレイは別売。MATEのハードディスクモデルはWindowsインストール済み。

	Be /U 7 W	Bs /U 7 W	Bp /U 7 W	Bp /U 8 W
CPU	486SX(25MHz)	486SX(33MHz)	486DX2(66MHz)	
メモリー	5.6Mバイト（最大35.6Mバイト）			
グラフィック	640×400ドット　4096色中16色			
ウィンドウアクセラレーター	○			
ハードディスク	120Mバイト	170Mバイト	170Mバイト	340Mバイト
フロッピーディスク	1ドライブ			
拡張スロット	3			
値段	26万8,000円	29万8,000円	39万8,000円	43万8,000円

ローカルバスとウィンドウアクセラレーター

CPUに直結、32ビット・データを高速でやり取りできるのが、ローカルバス拡張スロット。これにウィンドウ・アクセラレーターをつけると、高速・高解像度表示が可能になる。全機種標準装備。

	フロッピーディスクモデル		ハードディスク内蔵モデル				
	As2 /U2・M2	Ap2 /U2・/M2	As2 /U 7 W	As2 /U 8 W	Ap2 /U 8 W	Ap2 /C 9 W	Ap2 /C 9 T
CPU	486SX(33MHz)	486DX2(66MHz)	486SX(33MHz)		486DX2(66MHz)		
メモリー	3.6Mバイト (最大71.6Mバイト)		5.6Mバイト (最大73.6Mバイト)				7.6Mバイト (最大71.6Mバイト)
グラフィック	640×400ドット（4096色中16色，または1677万色中256色）　640×480ドット（1677万色中256色）						
ウィンドウアクセラレーター	オプション		○（86C928）				○(MATROX社製)
ハードディスク	オプション		170Mバイト	340Mバイト	340Mバイト	510Mバイト	510Mバイト
フロッピーディスク	2ドライブ（M2モデルは5インチ）		1ドライブ				
CD-ROM	オプション		オプション			○（倍速/マルチセッション）	
拡張スロット	4		4				3
値段	32万8,000円	44万8,000円	41万8,000円	45万8,000円	58万円	70万円	80万円
	（M2モデルは1万4,000円高）						

コンパチのEPSON

コンパチ機だからといって甘く見てはいけない。「98で動かないソフトでもエプソンマシンなら動く」といわれるほど、互換性の高いのがEPSON機の特徴なのだ。しかもNECに比べて低価格。新しいFELLOWと比べても、全く遜色はない。PCI（高速ローカルバス）採用機種もあり、グラフィックの高速化を実現している。

98互換機はコストパフォーマンス抜群!

現在エプソンが主力としているマシンは3シリーズ、5機種に分けられる。性能を追求した「486H」シリーズと、極限まで価格を抑えた「486S」シリーズ。それに、高性能なノート型の「NOTE AS」だ。順を追って見ていこう。

「486H」シリーズは、「P2」に対応。これはエプソン独自の「アップグレードコンセプト」を発展させ、「Pentiumプロセッサーへの対応を保証」「PCIバスの採用」という、2つのPをうたったものだ。PCIバスとは、米国インテル社（486やPentiumの開発メーカー）が提唱するローカルバスの規格。周辺機器（拡張グラフィックボードを含む）とのデータのやり取りが、劇的に速くなる。

「486S」シリーズは、とにかく安い。しかし、けっして「安かろう悪かろう」なマシンではない。32ビットローカルバスを使用し、グラフィックやテキスト表示を高速化。もちろん、CPUは486だし、ODPにも対応している。熟達したユーザーにはスペックに不満な点もあるかもしれないけれど、初心者ならば全く問題ないはずだ。

「NOTE AS」の最大の武器はその拡張性。最大33.6Mバイトまで増やせるメモリーや、CPUモジュールの交換。ディスプレイをモノクロからカラーへ交換することまでできるのだ。

486HX・HG

このモデルが、9821ではなく9801の互換機であるのが残念。最大メモリー容量が63.6Mバイトであること以外は、抜きんでたところがない。実売価格にもよるが、これなら同価格帯のMATEのほうが……。

速度——A
グラフィック——C
メモリー——C
拡張性——B
価格——C





486SR・SE

おすすめ機種。この価格設定に脱帽だ。速度的にも現状では十分だろうし、不満が出たらODPで解決。気になったのは外部拡張スロットが2つってことだけど、HDDやメモリーは、専用スロットに増設できるしね。

速度——B
グラフィック——C
メモリー——C
拡張性——C
価格——A

NOTE AS

セカンドマシンとしては理想的な機種。2ドライブでFM音源付きだから、ゲームにも向く。しかし、これをメインに使うには、ディスプレイをカラーにして、HDDをつけて……と、逆に高くついてしまうかもしれない。目的をよく考えて、選択すべし。



エプソン主要スペック

	SE	SR	HG		HX		
CPU	486SX（25MHz）	486SX（33MHz）	486DX2（50MHz）		486DX2（66MHz）		
メモリー	1.6Mバイト（最大17.6Mバイト）	3.6Mバイト（最大19.6Mバイト）	3.6Mバイト（最大63.Mバイト）	7.6Mバイト（最大63.6Mバイト）	3.6Mバイト（最大63.6Mバイト）	7.6Mバイト（最大63.6Mバイト）	
グラフィック	640×400ドット（4096色中16色）		640×480ドット（4096色中16色）				
ウィンドウアクセラレーター	オプション		オプション	○	オプション	○	
フロッピーディスク	2		2				3
ハードディスク	オプション		オプション	200Mバイト	オプション	200Mバイト	320Mバイト
拡張スロット	2		4	3	4	3	
値段	15万8,000円	21万8,000円	33万8,000円	52万8,000円	39万8,000円	58万8,000円	69万8,000円

＊HG、HXには、このほか3・5インチ2台、5インチ一台内蔵のモデルがある。ディスプレイは別売。

機種選択のチェックポイント

新しいマシンは欲しいけど、店に行っても種類が多くてどれを買えばいいのかわからない。カタログを見てもチンプンカンプン。そんなキミのために、機種を選ぶときに必要なポイントを伝授しよう。これさえ読めば、どの機種を選べばいいかわかるハズ。

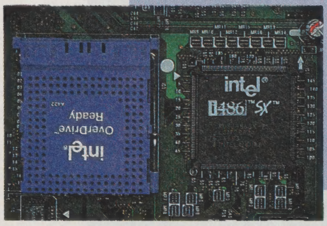
CPU&クロック

何をやるにしても、最も重要になるポイントがコレだ

用語解説はあとのページに譲るとして、ここでは、どう選ぶかだけ伝えよう。

まず、CPUは迷わず486。クロック数が同じでも、386とでは2倍の速度差があるんだ。もっとも、現在主流のマシンには間違いなくこのCPUが搭載されているから、あまり気にする必要はないかも。

クロック周波数は高いほど速度が上がる。486なら、33MHzぐらいのものを選べば、SLGや3Dポリゴンゲームから Windowsまで、快適に動かすことができる。



これがパソコンの頭脳ともいえるCPU様だ!

グラフィック

16色から1677万色まで。表現力は天と地ほどの差があるけれど…

98というと、グラフィックが640×400ドットで16色はもうお約束。ところが、このワクを打ち破ったのが、9821シリーズ。最大640×480ドットの256色表示を可能にしたのがこのマシンだ。ただし、新機種の「MATE B」シリーズでこのモードが使えないのは前述のとおり。

さらにWindows環境下では、ウィンドウアクセラレーターボードを使用すれば、最大1677万色というフルカラー環境を提供してくれる。その表現力は、実写映像と区別がつかないほどだ。

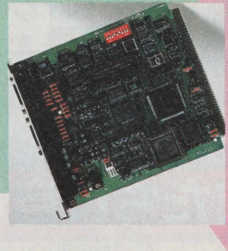


256色対応のゲームもかなり増えてきた。

サウンド

ひとくちに「FM音源」といっても、2種類あるのを知ってるかな?

現在主流のFM音源だけど、ここにきてPCMを使用した上位互換の新音源が普及し始め、対応ソフトも多くなってきた。「MATE A」シリーズには、この新音源が採用されている。「MATE B」や「FELLOW」には音源が搭載されていないので、新たに増設する必要があるんだけど、外付けの音源ボードにはジョイスティック端子もついているから、考えようによっては得かもしれないね。エプソンの各機種には従来のタイプが内蔵されているよ。



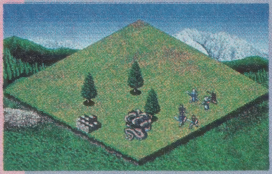
サウンドブラスターにも注目が集まっている。

ハードディスク

大容量化するソフトに対応するには、不可欠の要素だ!

ちょっと前までは、高価な周辺機器というイメージだったHDも、急速に大容量、低価格化が進んできた。とくに内蔵型は、古いユーザーからは信じられない値段で提供されている。

80Mバイト程度のものから500Mバイトを超えるものまで、さまざまなタイプが発売されているので、とまどうかもしれない。もちろん大容量に越したことはないけれど、200Mバイトぐらいのものを選んでおけば、まず間違いないだろう。



HD専用ゲームも。

拡張スロット

使う機会は少ないかもしれないけれど、重要なポイントだ

たいてい本体の背面にあるこのスロット。前述のFM音源ボードやMIDI、イメージスキャナーなどを接続したいとき、どうしても必要になる。

デスクトップタイプの場合、一般的に2〜4つのスロットが用意されている。これだけあればまず大丈夫……なはずだけど、HDやFDドライブを外付けしたいのにインターフェースがない、などの場合を考えると、けっして安心はできない。まして、ノート型ともなれば、このあたりの拡張性に期待することはできない。

自分がどこまで拡張したいのかを把握しておき、あとで困らないように機種を選ぶ必要があることも忘れてはいけないポイントだ。

ETC…

まだまだあるチェックポイント。「何をやりたいのか」によって選択基準も変わってくる

最も気になるのは、やっぱり価格。でも、安いマシンにはそれなりのデメリットもある。機能と値段の折り合いを見て、最も適した価格帯を探す必要がある。これは買う人ごとに価値基準が違うだろうし、一概に「このマシンがいい」といい切ることはできないけどね。

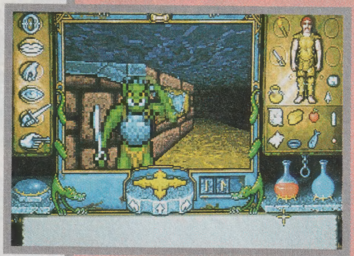
そして「新しいCPUには気をつけろ」。現在主流のマシンは、どれも486搭載機として安定してきてるけど、新たなCPUを搭載した機械、とくにその初期ロットにはトラブルがつきものだ。

あとはメモリー。できれば3.6Mバイト程度の機種を選ぶか、増設を考えよう。欲をいえば8Mぐらいは欲しい。ディスクキャッシュ、RAMディスクと、利用目的は多い。

目的別 POPCOM オススメ機種はこれだ！

さぁ、98コーナーの総まとめだ。そろそろ、どんなマシンが欲しいか決まってきたかな？　まだ決めかねている人に、このページを贈ろう。「何をやりたいか」ぐらいは決まってるでしょ？

とことんゲームだっ！



ゲームにすべての情熱を傾けたいキミには、「98MATEAs2」をオススメしよう。

33MHzの486を使用しているこのマシンは、現在市場に流通しているソフトを動かすには十二分なスペックを持っている。『ウルティマ・アンダーワールド』や『アローン・イン・ザ・ダーク』など海外の話題作も、同等のクオリティーで楽しめるしね。

もし、このスペックにものたりなくなることがあったとしても、ODPを装着することで66MHzで動作させることができるし、メモリーも73.6Mバイトまで増設できるから、将来的にも安心だ。まぁ、メモリーに関しては、こんなに増やす必要があるのは一部のWindowsユーザーだけだと思うけどね。

イロイロやりたい

まぁ、なんて欲張り。そんなキミには98MULTi(9821Ce)を推薦しよう。ディスプレイとCD-ROM、FM音源やマウスまで標準装備されていて、256色表示も可能。ちょっとお金持ちなら、HDD内蔵モデルにメモリーを増設すればカンペキだ。

ゲームから、Windows、ワープロ(これにはプリンターも必要だね)、データベース、プログラム開発やCGまで、オールラウンドに使うことができるだろう。486SEと同じCPUを使っているので将来性に不安を感じるかもしれないけれど、こちらには多色表示の強みがある。速度面以外の部分でなら、将来的にも問題なしだ。



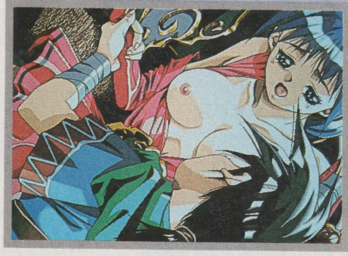
安さ爆発！

初期投資を極力少なく抑えたい、という倹約家には、エプソンの「PC-486SE」しかない！　30cm×30cm×10cmというコンパクトなボディーながら、25MHzの486を搭載し、メモリーも標準1.6Mバイト。FM音源も内蔵されているから、これ1台あれば、必要最低限の機能はすべて兼ね備えていることになる。

なによりも、16万円を切った価格は他の追随を許さない。実勢価格でも、エプソンマシンは割引率が高い傾向にあるようだから、サイフに余裕があったら、一緒にHDDも買っちゃおう。最近はゲームも巨大化して、ディスク枚数も増加の一途をたどっている。フロッピーベースでのプレイには、そろそろ限界が見えてきているし、HDDに登録して、快適にプレイしたいね。

ただし、この機種選択には弱点もないわけではない。将来的に、どこまで実用に耐えるかがいまひとつ見えてこないんだ。16色表示、最大17.6Mバイトのメモリー、25MHz(ODP装着で50MHz)の486、2つの外部拡張スロット……。現状で使用するなら問題のないスペックではあるけれど、将来性を考えると不安は隠せない。

パソコンは耐久消費財ではあるけれど、長い間使えるに越したことはない。安物買いの銭失いにならないように。



友だちに自慢だっ

うーん、不純だ。なんて不純な動機なんだ。でも、そんなご要望にもあえてお答えしよう。カクゴはできてるだろうな。え？　おい。

まず、マシンはMATE Ap2。それも、最上位モデルのAp2／C9Tと呼ばれるものだ。7.6Mバイトのメモリーに、国内最高速のウィンドウアクセラレーターを搭載し、1677万色を同時発色可能。倍速CD-ROMと、510MバイトのHDDを標準装備している。

これだけじゃ、まだ自慢はできないな。このモデルにはFDが1ドライブしかないので、もう1ドライブ追加。ディスプレイはマルチスキャンの21インチ。メモリーは当然フル実装。予算？　実売で160万円(税別)も出せばそろうんじゃない？　ホントに買ったら教えてよね。自慢してもらいに行くからさ。

マルチメディアの王道

FM TOWNS
富士通

CD-ROMを核に、充実したグラフィックとサウンド機能でマルチメディアマシンを名乗る32ビットパソコン。新機種はCPUとCD-ROMの高速化で差をつける！



モデルMA

CPUに33MHzの486SXを搭載したスタンダードモデル。倍速CD-ROM、高解像度やフルカラーグラフィックをサポートした、新TOWNSの主力モデルだ。Windowsも余裕で動く。

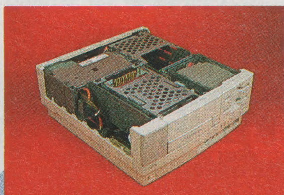
スピード――B
グラフィック――A
サウンド――A
価格――A

全機種486CPU化でスピードアップ！

CD-ROM搭載で頑張る、富士通のマルチメディア・パソコンFM TOWNS。恒例の秋のモデルチェンジで、5代目へと進化した。ちなみに、発表会が行われたのは、11月9日。NECの新製品発表会の前日で、ポプコム12月号の発売日の翌日であった（?）。

国内、国外を問わず、このところパソコンの低価格化競争が激しい。TOWNSもその波には逆らえず、今回のモデルでは、高速・高性能化して、さらに値段も下げられた。以前のモデルを持ってる人からすれば、激怒するような内容だけれど、それはNECやエプソン、アップルだって同じこと。技術革新とは、そういうもんだ。

新しいモデルは、3機種。スピードの決め手となるCPUは、全機種インテル社の80486を採用。しかも、今までのHRと比べてクロック周波数が上げられている。その結果、いちばん安いME（25MHz）でも、HR比25%。スタンダードモデルのMX（33MHz）で約1.7倍、最上位機種のMA（66MHz）に至っては、約3倍のスピードアップを実現しているのだ。



本体のカバーを開けたところ。ドライバーなしで簡単に開けられるのは、前と同じ。

オプションだったキーボードは、今回から付属に。富士通伝統の「親指シフト」タイプと、「JIS配列」タイプの2つから選べる。キータッチも軽めになった。





倍速タイプになり、読み込みスピードが大幅に速くなったCD-ROMドライブ。PHOTO-CD対応。音楽用CDも演奏できる。（写真のCDは、いったい……？）



マルチメディアマシンには、なぜか必須のマイク。内蔵型から外付けタイプに変更されたので、カラオケもOK（!?）。写真のマウスのほか、パッドも標準添付。



グラフィックは、1677万色（640×480ドット）のフルカラーモードをサポート。またMX／MAでは、別売のビデオカードIIIをつければ、フルカラーでのビデオ映像取り込みが可能になる。

倍速CD-ROMで遅いとはいわせない

スピードアップしたのは、CPUだけじゃない。TOWNSの看板、CD-ROMにも、高速化のメスが入れられた。その秘密は、最近流行の倍速CD-ROMドライブの採用。その名のとおり、CD-ROMの読み込み速度を2倍にしたドライブだ。マッキントッシュやIBM-PCの世界ではすでにあたりまえとなりつつあるこのドライブを、今回のモデルでは採用したのだ。

同時に、このCDドライブはコダックのPHOTO-CDにも対応している。ただし、そのPHOTO-CDは、付属の『Townsシステム』では表示できない。なぜなんでしょ？

ハードウエアの改良点はまだある。上位機種のMXとMAでは、グラフィック機能を大幅に拡張。1677万色のフルカラー表示モードを追加した。さらに、最大1024×768ドットの高解像度グラフィック表示もサポートしている。これは、もちろん『MS-Windows』で使うため。同時に、高解像度をサポートする専用ディスプレイも、新たに用意されている。

サウンド機能も、バージョンアップ。新たに16ビットのPCM録音／再生機能が追加された。マルチメディアをにらんだ設計になっている（コラム参照）。

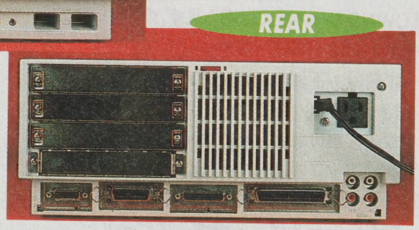
モデルMX

MAのCPUを66MHzの486DX2に代えた高速モデル。ゲームに使うには速すぎる!?

スピード——A
グラフィック——A
サウンド——A
価格——C







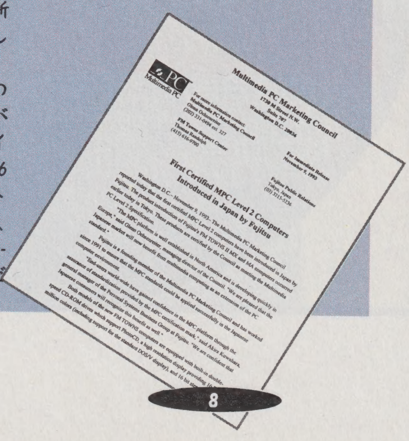
MX／MAのフロント及びリア周り。リアには、汎用スロット3つと、ビデオカード専用スロットが用意されている。

MPC2.0準拠!?

MPCはマルチメディアPCの略称。マイクロソフト社が中心となって決めた、マルチメディアパソコンの標準規格だ。現在は、「マルチメディアPC・マーケティング・カウンシル」という団体により、標準化、普及のための規格作りが行われている。「MPC2.0」は、最新規格。新TOWNSは、この「MPC2.0」にしっかり対応しているのだ。

その条件は——CPUが25MHzの486SX以上。メモリーは最低4Mバイトで、ハードディスクも160Mバイト以上。640×480ドット、6万5536色のグラフィック機能と、16ビットPCM音声の録音／再生機能を持ち、さらにPHOTO-CD対応の倍速CD-ROMドライブを持つもの——と、だいたいこんな感じ。新TOWNSは、余裕でこの条件をクリアしているわけだ。

写真は、その証明書。ちなみに旧TOWNSは、その前の「MPC1.0」に対応してた。マルチメディアパソコンの名は、ダテじゃない。



Multimedia PC

Multimedia PC Marketing Council
1730 M Street N.W.
Suite 707
Washington D.C. 20036

For more information contact:
Multimedia PC Marketing Council
Glenn Ochsenreiter
(202) 331-0494 ext. 327

FM Towns Support Center
Thomas Randolph
(415) 616-9700

For Immediate Release
November 9, 1993

Fujitsu Public Relations
Tokyo, Japan
(03) 3215-5236

First Certified MPC Level 2 Computers Introduced in Japan by Fujitsu

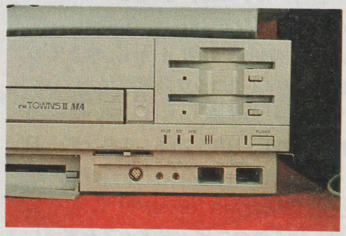
Washington D.C.– November 9, 1993– The Multimedia PC Marketing Council reported today that the first certified MPC Level 2 computers have been introduced in Japan by Fujitsu. The product introduction of Fujitsu's FM TOWNS II MX and MA computers occurred earlier today in Tokyo. These products are certified by the Council as meeting the Multimedia PC Level 2 Specification.

"The MPC platform is well established in North America and is developing quickly in Europe," said Glenn Ochsenreiter, managing director of the Council. "We are pleased that the Japanese market will now benefit from multimedia computing as an extension of the PC standard."

Fujitsu is a founding member of the Multimedia PC Marketing Council and has worked since 1991 to ensure that the MPC standards could be applied successfully in the Japanese computer environment.

"End-users world-wide have gained confidence in the MPC platform through the assurance of standardization provided by the MPC certification mark," said Akira Kuwahara, general manager of the Personal Systems Business Group at Fujitsu. "We are confident that Japanese consumers will recognize this benefit as well."

Both models of the new FM TOWNS computers are equipped with built-in double-speed CD-ROM drives which support PhotoCD, a high resolution display providing 16 million colors (including support for the standard DOS/V display), and 16 bit st



パッド、マウス、マイク、イヤホン端子が並ぶ右フロント。内蔵の3.5インチは、1.44Mバイト対応の3モードタイプ。



MX／MAは、CD-ROMドライブの上にファイルスロットを装備。ハードディスクやMOドライブが内蔵できる。

性能で選ぶならMA ホビーに十分のME

今回は、年末恒例の購入ガイド企画なので、新しいTOWNSのオススメ機種を教えよう。ただし、あくまでも「EYES ONLY」、マル秘である（ハードボイルドに決めたいのだ）。

フツーに考えると、スタンダードモデルのMAがいちばん。スピードは十分速いし、高解像度グラフィックでWindowsにもしっかり対応している。ゲームも、もちろん大丈夫。スピードなら、上位モデルのMXのほうが速いけれど、オプションの倍速CPU、オーバードライブ・プロセッサーさえつけてしまえば、性能は同じになる。値段も、こちらのほうが10万円安い。

Windowsなんて関係ない、ゲームやCGなど、ホビーで楽しめればいいというなら、安いMEでOK。これでも、ゲームを楽しむなら速すぎるくらいの性能だ。だいたい、TOWNS用のゲームなんて、互換性をとるため、新しい機種でもわざわざ遅いモードで動かすようにしてあるのがほとんど。年末に出るゲームでスピードを気にするのは、『アローン・イン・ザ・ダーク』と『ウルティマ・アンダーワールド』くらい。それだって、MEならちゃんと動く。なにしろ、旧HRよりも速いんだからね。それよりも、値段に注目。この内容で、20万円以下というんだから、はっきりいって激安だ。

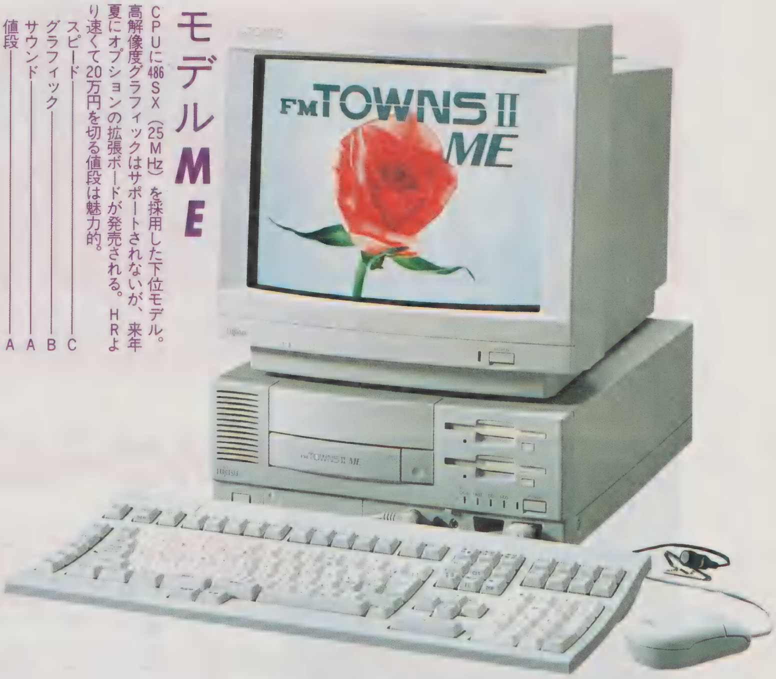
MEも、MAと同じく、オプションでODPが用意される。また、グラフィック機能をMX／MA並みにする拡張ボードも、発売される予定。ただし、こちらは発売時期が来年の夏というから、気の長い話になる。

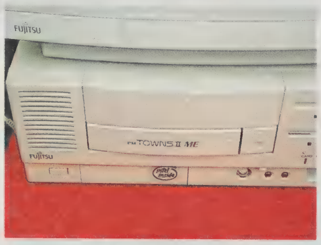
ちなみに、ディスプレイ一体型のUR（486・20MHz）は、継続販売される。過剰なスピードがいらないなら、これもまたひとつの選択だ。

モデルME

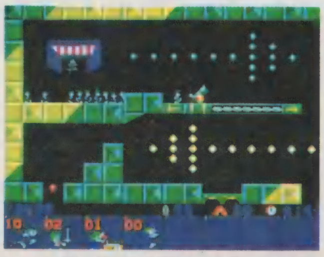
CPUに486SX（25MHz）を採用した下位モデル。高解像度グラフィックはサポートされないが、来年夏にオプションの拡張ボードが発売される。HRより速くて20万円を切る値段は魅力的。

スピード ―― C
グラフィック ―― B
サウンド ―― A
値段 ―― A





丸みを帯びたフロントデザインのME。ファイルスロットはつかない。また、拡張スロットも2つまで。



富士通から発売される『レミングス2』。相変わらず、海外ソフトが多い。

移植ソフトは、音声が追加されるパターンが多い。写真『3×3 EYES』もそう。



TOWNSニューモデル主要スペック

	モデルMX	モデルMA	モデルME
CPU	486DX2（66MHz）	486SX（33MHz）	486SX（25MHz）
メインメモリー	4Mバイト（最大28Mバイト）		2Mバイト（最大18Mバイト）
グラフィック	1024×768ドット 1677万色中256色 1面 1024×768ドット 4096色中16色 2面 512×384ドット 32768色 2面 640×480ドット 1677万色 1面 640×480ドット 1677万色中256色 1面 640×480ドット 4096色中16色 2面 320×240ドット 32768色 2面 360×240ドット 32768色 2面 640×400ドット 4096色中16色 2面		640×480ドット 1677万色中256色 1面 640×480ドット 4096色中16色 2面 320×240ドット 32768色 2面 360×240ドット 32768色 2面 640×400ドット 4096色中16色 2面
サウンド	16ビットPCM録音／再生 ステレオ1ch（サンプリング周波数48KHz） PCM音源 ステレオ8ch FM音源 ステレオ6ch CDオーディオ ステレオ		
CD-ROM	倍速／マルチセッション対応（先読みバッファ64Kバイト付き）		
ディスク	3.5インチ×2（2DD／2HD／1.44Mバイトの3モード対応）		
汎用スロット	3		2
専用スロット	オーバードライブカード ビデオカード 前面ファイルスロット ICカード		オーバードライブカード ビデオカード ICカード
値段	39万8,000円 46万8,000円 （170MバイトHD内蔵） 51万8,000円 （340MバイトHD内蔵）	29万8,000円 36万8,000円 （170MバイトHD内蔵） 41万8,000円 （340MバイトHD内蔵）	19万8,000円 26万8,000円 （170MバイトHD内蔵）

最新海外ゲームはお任せ!

DOS/V IBM-PC&互換機

世界の標準パソコン、IBM-PCとその互換機。かつてビジネス一本やりだったこのマシンも、最近は良質ゲームが出まくりだ。



世界のゲームがキミの手に!

世界標準パソコンは低価格なのに高性能

業務用大型コンピュータでトップの地位を得ていたIBMが、1984年に発表した16ビット機、IBM-PC/AT。CPUにインテル社の80286を採用、16ビットバスを採用したこのパソコンは、BIOSを除くすべての基本仕様が公開され、多くの互換機メーカーの参入を促した。結果、このATとその互換機は、アメリカのパソコン市場を席捲することになったのだ。その状態は現在も続き、いまや世界では、パソコンといえばIBM-PCのことになっている。もちろん、CPUは32ビットの80486DX、バスは32ビットローカルバスへと進化しているけどね。

そんなIBM-PCも、なかなか日本市場では受け入れられなかった。問題は日本語。アルファベットの国のマシンだから、日本語表示が苦手だったんだ。その問題を解決したのが、日本IBMが発表したDOS/V。ソフトで日本語表示を可能にしたOSだ。このDOS/Vの登場で、海外からどんどんマシンが入ってくるようになった。DOS/Vマシンとは、DOS/Vが動くIBM-PC互換機のことなんだ。

海外の激しい競争にもまれた各メーカーが発売するDOS/Vマシンは、低価格かつ高性能。PC-98も安くなっているけど、まだまだDOS/V機にはかなわない。それに海外ではシェアが大きいから、当然ゲームも山のようにリリースされている。ゲームファンにも見逃せないマシンだぞ、これは。

上はオリジン社の『ストライク・コマンダー』、下はアコレイド社の『スピード・レーサー』。前者は来年日本のマシンに移植されるというが IBM版はすでに今年前半に発売済み。後者にいたっては、移植予定もまだ正式には決定していない。





●日本IBM　398,000円～

本家IBMの最速機、486DX2（66MHz）の2410-Nは、ウィンドウアクセラレーターも標準装備。拡張性も高いし、本家のブランドは安心感がある。



●コムパック　118,000円～

高い信頼性で互換機のBMWと呼ばれるコムパック。多数のモデルがあるが、486DX2（66MHz）搭載の4/66モデルでも298,000円からと、価格もお手頃。



●DEL　195,000円～

ユーザー直販のDELの新製品。高速VLバスとアクセラレーターを採用し、高い処理速度を実現。同社には10万円を切る333S/Lという機種もある。

これだけは必要！
ユーザーから見たDOS／V

市場には、100機種以上のDOS／V機が出回っている。どれを選ぶのも自由だが、これだけは押さえたほうがいいという条件を右に挙げてみた。

ちょっとぜいたくだと思うかもしれないが、満足な結果を出すにはこのくらいは必要。安いからといってヘボいマシンに手を出すと、大後悔するぞ。

ゲーム派		WINDOWS派	
CPU	486SX・25MHz	CPU	486DX・33MHz
メモリー	4Mバイト	メモリー	8Mバイト
ハードディスク	100Mバイト	ハードディスク	200Mバイト
ビデオボード	VGA	ビデオボード	SVGA

周辺機器を忘れるな！

周辺機器で、豊かなパソコンライフ実現

IBM-PCの特徴としては、拡張性の高さが挙げられる。普通のパソコンでは、マシンの中枢に位置づけられるビデオボードまで取り替えられるのだからスゴイ。まあ、たんに設計がズボラだったという説もあるけど、IBM-PCは自分の目的に合うように周辺機器をどかどか増設し、仕上げていくマシンなのだ。

とくにゲームをする場合、これだけは増設しておいたほうがいいという周辺機器がいくつかある。もともとIBM-PCはビジネス方面での利用を主な使用目的に考えられているため、ゲームを快適にプレイするための機能が最初から付属してはいないのだ。ともかく、何をおいても音源ボードとジョイスティックは、ゲームユーザーなら購入しておくべきだろう。それにマッキントッシュと比較すると普及の遅れていたCD-ROMも、最近になって順調にソフトが出ているから、これも買い、というところかな。

そうそう、マシンに最初からついているものの、キーボードには注意が必要。海外では101型というタイプが主流だが、「DOS／V」を使用するには、日本語変換キーなどが追加された106型でないと不都合が生じる。〝DOS／V機〟と銘打たれたマシンなら106型がついているだろうが、たんに〝IBM-PC互換機〟と表示された輸入マシンではそうでないことも。購入の際は確認を怠らないように注意。

音源ボード

多くの音源がある中で、現在最も一般的なのは、『サウンドブラスター』。FM音源のほかにPCM音源も搭載し、ほとんどのゲームに対応している。

さらに高性能を求めるならMIDI音源という手もあるが、これはけっこうお金がかかる。コンピュータ・ミュージックに興味がないなら、とくに必要はない。



『サウンドブラスター』の中でも、最もポピュラーな『プロ』。日本では東海理化販売から24,800円で発売されている。

CD-ROM etc.

まだ先物買いという気がしないでもないけれど、やはりCD-ROMは今後ますます発展するメディア。今のうちから手に入れておくのも悪くない。

CD-ROMドライブを購入する際のポイントは、多少高くてもデータ転送の速い倍速SCSIタイプを選ぶこと。あまり遅いと、うまくソフトが動かないぞ。

ソニーの倍速ドライブ、CDU-781-10。インターフェースはSCSI仕様。気になる価格は、89,800円。



ジョイスティック

やはりゲームをするなら、ジョイスティックがあったほうがいい。さまざまな形の製品があるが、耐久性にさえ気をつければ、自分の好みで選べばいいだろう。

なお、ジョイスティックは音源ボードに接続するのがベスト。そうでなければ、わざわざ専用拡張ボードを増設する必要が出てくる。これは無駄だ。



ポプコム編集部で利用している「スラスト・マスター」は輸入品。実売価格は15,000円程度だ。

注目ゲームがやってくる！

ゲームをするなら やっぱりDOS／V

海外におけるIBM-PCのシェアには、目を見張るものがある。その結果、莫大な数のソフトがIBM-PC用に開発されているのだ。その中には、もちろんゲームも含まれている。

以前はコモドール社のアミーガ、アタリ社のAtari-STといったパソコンが良質のゲームを楽しめることで知られていたけれど、現在それらの機種はだんだんと衰退。たまに趣味的な専用ゲームが発売されるマッキントッシュがあるものの、現在ゲームができるパソコンといえば、IBM-PCのこと。実際、良質な最新ソフトが次々と発売され、目が離せない状況だ。

IBM-PCでゲームをプレイしていくうえで何か問題が生じるとすれば、それは英語の問題だろう。しかしものはゲーム。あくまで楽しむために作られたものだから、硬派軍事シミュレーションなど一部の例外を除いて、そう難解な表現は出てこない。さすがに中学生だとキツイだろうが、高校生程度の英語力があれば、辞書を引き引きプレイすることができるだろう。

ちなみに、「DOS／V」を使用すれば英語の文章が自動的に日本語に翻訳されると思っている人がいるようだが、それは勘違い。「DOS／V」は、漢字ROMを持たないマシンに日本語の文字を表示させる機能があるだけで、べつに翻訳機能を持っているわけではない。もともと日本語のデータなんて入力されていない英語圏のゲームは、英語でプレイするしかない。

SIMCITY 2000



米国マクシス社の新作。あの大ヒット作がクォーター・ビューに生まれ変わった。

Syndicate



「ポピュラス」を生んだブルフロッグ社の新作。サイバーな異色シミュレーションだ。

Flight Simulator5.0



マイクロソフト社の定番シリーズの最新作。今度はSVGAに対応。

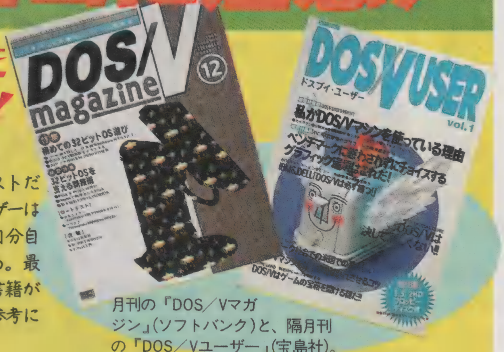
ちょっと待ったあ！ 購入時にはココに注意！



①最新情報をキャッチせよ！

DOS／V機を購入するにあたってまず注意しなければいけないこと、それはマシンの知識を得ることだ。あたりまえのように聞こえるだろうが、この業界の技術進歩の速度には目を見張るものがある。1年前の知識は通用しなくて当然、という世界なんだな。そのため、常に最新の情報をストックしておく必要がある。

周りに詳しい人がいればベストだが、残念ながらIBM-PCのユーザーはまだそう多くない。いきおい自分自身で情報を集めるしかなくなる。最近はDOS／Vに関する雑誌や書籍が出回っているので、それらを参考にしてみよう。



月刊の『DOS／Vマガジン』(ソフトバンク)と、隔月刊の『DOS／Vユーザー』(宝島社)。

②ショップ選びは慎重に！



秋葉原のT・ZONE。海外機の扱いには定評がある。

最近はDOS／V機を扱っているショップが増えてきた。しかし中には、売るのはいいがマシンに対する知識が乏しいというところもある。いくら安くてもこんなショップでマシンを買ってしまうと、あとで何かあったときに困る。ただでさえ国産マシンと比較すると問題が生じやすいDOS／V機のこと、ショップ選びは慎重にしなければならない。

ここ数年のブーム以前から海外マシンを扱っているショップや、歴史は浅くても大きな販売量を挙げている専門ショップ。こういったショップなら、それなりのノウハウを蓄積していると判断していいだろう。

どうなる!? 家庭用ゲーム機市場

TOPICS

小康状態を保っていた家庭用ゲーム機市場が、'94年以降、大激震に襲われる。ゲーム機メーカーからコンピュータメーカー、はては家電メーカーまで、各社入り乱れた新製品ラッシュが始まるのだ。こりゃあ目が離せないぞ。

いよいよ米国発売！ 3DO

ゲーム機ラッシュの第１弾が発売開始！

いよいよ、３DOのハード第１号、松下電器のREALがアメリカで発売された。初期ロットの２万台を完売し、年末までには10万台程度の出荷を見込む状況というから、まずは順調なスタートを切ったといえるだろう。

世界最大の家電メーカー、松下電器。米国最大の通信会社、AT＆T。総合メディア産業のタイムワーナー。以上の大企業を中心にした出資により設立された米国３DO社が管理、運営するCD-ROM機の規格が、「３DO規格」。REALは、この規格に対応したマシンの第１号というわけ。

非常に高いグラフィック処理能力を持つ３DO。だがその最大のセールスポイントは、ハード自体というよりは、その強力なバックアップ体制にある。まずハード面では、各メーカーが規格に適応したマシンを発売することにより、その普及を促す。実際、松下電器以外にも、AT＆Tとサンヨーがマシンを発売することが決定済みだ。

またソフト面でも、100社以上のソフトハウスが参入を決定。今回同時に発売されたソフトは４本と、当初の予定よりは大幅に減ってしまったものの、クリスマスまでには20本以上の作品がリリースされるというし、その後もソフト不足に悩むという状態には陥らないと思われる。

REALは来春、日本でも発売される予定。現状から判断すると、気に入った作品が出た時点で即購入しても、とくに〝スカ〟を引く結果にはならないはず。



これが３DO規格ハードの第１号、松下電器が発売した「FZ-１ REAL ３DO Interactive Multi-Player」だ。コントロールパッド１つ、機能紹介ソフトとゲームソフトが１本ずつ付属して、価格は699ドル。ARM社の32ビットRISCチップ、ARM60を12.5MHzで駆動し、最大1600万色を同時発色する。来年の発売が待ち遠しくってしょうがないな。





上は『デモニッシュマン』（ヴァージンソフトウエア）、下は『クラッシュ・アンド・バーン』（クリスタルダイナミック）。





中央が『マッドドッグ・マクギー』（アメリカン・レーザーソフト）、右が『ロード・ラッシュ』（エレクトリック・アーツ）。

続々登場するマシン群!!

会社名	機種名	CPU	発売	価格	期待度
3DO	3DO(製品名はメーカーにより異なる)	32ビット	93年10月	699ドル(REAL)	ソフト、ハードともに体制が整っている。☆☆☆☆
任天堂	未定	64ビット	95年末	3万円以下	よほど発売が遅れないかぎり、大ヒット確実か。☆☆☆☆☆
セガ	サターン(仮称)	32ビット	94年末	5万円以下	セガの強いヨーロッパでは、人気を得るのでは。☆☆☆
ソニー	PS-X(仮称)	32ビット	94年末	5万円以下	性能は高そうだが、どれだけソフトがそろうか。☆☆
NEC	FX	32ビット	94年末	未定	PCエンジンでは他のゲーム機に遅れを取ったが。☆☆
アタリ	ジャガー	64ビット	94年12月	200ドル	第2のリンクスになるのでは、という不安も。☆

出てくる出てくるおニューなマシン

さて、今後僕らの目前に現れる新型家庭用ゲーム機は、3DOだけではない。見よ、上の一覧表を。正式発表されたものだけで、これだけのニューフェースが続々と登場するのだ。

もちろん各機種間に互換性なんてあるワケない。しかしまあ、スーパーファミコンとメガドライブ、それにPCエンジンの中からどのハードを選ぶかで悩んだ人も多いというのに、こんなに違うマシンが出回るとは。もういったいどうしろってんだい、ベラボウめ。おれはグレちゃうぞ。

まあ、ごちゃごちゃいってもしょうがない。もう出ることは決まっちゃってるんだから。ともかく、それぞれのマシンの仕様及びその展望を、個別に予想してみることにしよう。なお、各マシンに対する評価は、あくまで現時点で入手している情報を判断基準にしている。今後の動向によっては内容に修正を加える必要が出てくるかもしれない。その場合はご容赦を。

任天堂

任天堂が、CG分野では最高のハード製作能力を有する米国シリコングラフィック社と共同開発するマシン。スーパーファミコンとの互換性はない。MIPS社の64ビットチップをCPUに採用し、グラフィックワークステーション並みの処理能力を持つという。メディアに関しては発表されていないが、1600万色を表示する＝データが大きくなる＝CD-ROMでは、と推測されている。

今回取り上げたマシンの中ではいちばん遅れて発売されるため、他機種に先行逃げ切りされるのでは、という予想もあるが、任天堂には写真の『マリオ』ほかの、超強力キャラクターがいる。その地位は、多少のことでは揺るがないのでは。



セガ

日立が開発するオリジナル32ビットRISCチップをCPUに採用するほか、グラフィックなど各機能別に専用チップを併用。64ビット機並みの処理を実現するというマシン。こちらもメディアは発表されていないが、CD-ROMとROMカセットの両方が供給されるとの噂。とはいっても、メガドライブ及びメガCDとの互換性はないもようだ。

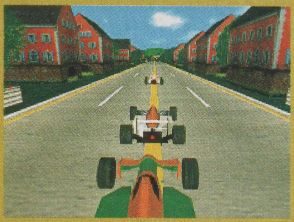
海外、とくにヨーロッパでは大健闘。新マシンも、かの地で熱狂的な人気を獲得している『ソニック』を中心にしたラインナップで躍進することが考えられる。でも日本では、セガのマシンはマニア受けはするけどセールス的にはそれほどでも、という経緯があるだけに、どうなることやら……。



ソニー

当初、任天堂との交渉決裂によって開発を断念したスーファミ用CD-ROM「プレイ・ステーション」を独自に発展させたものと考えられたが、実際はまったくのオリジナルだったというマシン。R3000Aというソニーが開発した32ビットRISCチップをCPUに採用し、脅威的なデータ処理速度を実現する。ハード的には、技術のソニーの意地を見せつけるものになっているといえるだろう。

しかし今のところ、ソフト開発を発表しているのがソニーの関連会社だけだというのが少々気になる。ソフトがなくなり消えていったベータマックスの存在がなんとなく頭に浮かんでしまうのは、ひねくれた人間だけなのでしょうか。



NEC

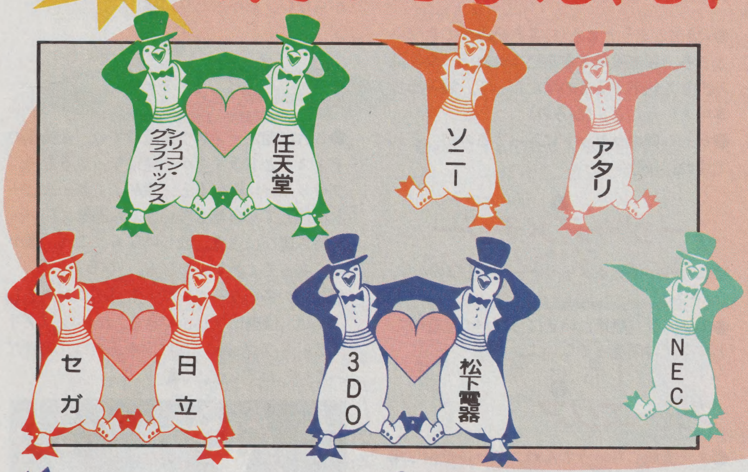
32ビットRISCチップ、V-810（NEC製）を使用したハドソン開発のマザーボード、「テツジン」をベースにしたCD-ROMベースのゲームマシン。ただし、PCエンジンとの互換性はない。

性能的にはいいものを持ってるけど、PCエンジンで無意味なモデルチェンジを重ねて失ったユーザーの信頼をいかに取り戻すか、それが問題だ。

アタリ

家庭用ゲームマシンの元祖、アタリ社が設計し、IBMがOEM生産するマシン。アタリが独自開発した64ビットCPUの能力はなかなか高そうだが、ソフトの供給に不安が残る。リンクスほどの失敗はなくても、かつてのセガマークⅢのように細々と生きるだけになるかもしれない。それ以前に、日本発売予定がないから、ポプコム読者にはあまり関係ないだろうけどさ。

PANIC! まさに大混乱状態! PANIC!



さてどうだい、この各社入り乱れた戦国状態は。これほど多くのメーカーが参入するのは、ゲーム機市場がおいしいマーケットと考えられているから。実際、家電不況といわれ、製品が売れず各社の売り上げが減少している現在、任天堂やセガといったゲーム機メーカーの抜群の高収益は非常に魅力的。多少のリスクはあったとしても、市場に参入する価値は十分にあると判断したのも当然といえる。まあ、思惑どおりにことが進むとは限らないのが、難しいところか。当たればデカイけど、ハズれたら何も残らないからなあ。

生き残るのはどれだ!?

生き残るのはどれだ!?



それでは僕らとしては、どのマシンを選べばいいのだろう。まずハード自体の性能は、判断基準になりにくい。ぱっと見、任天堂とアタリのマシンがビット数で有利そうだけど、実際には各マシン間にそれほど決定的な差はないようだ。

結局、どのマシンが生き残るかは、ソフト次第というあたりまえの結論に到達する。とりあえず実際にリリースされた各マシンの対応ソフトを観察し、その中でどうしてもプレイしたい作品があればそのソフトが動く機種を購入する。これしかないんじゃないかな。もちろん、たとえ良質な対応ソフトがあっても、写真のマシンみたいに消え去ってしまう可能性はけっして否定できないけどさ。



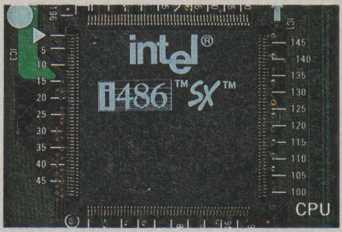
超初心者のパソコン用語辞典

ハードウエア

CPU Central Processing Unit

●手元にある資料には、中央演算装置とあった。中央というくらいだから、コンピュータ本体の中でいちばんエライ部分なんだろう。これがないとコンピュータといえないらしい。(ひろみ)

●コンピュータの中にあって、計算や条件判断など、いちばんコンピュータらしいことをしている部分。80386とか80486、68030とかいうのは、CPUの型番(形式)。車でいえばエンジンにあたるものなので、その形式にこだわる人が多い。(編)

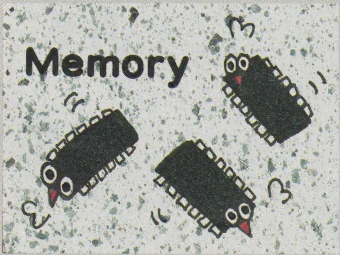


CPU

クロック Clock

●何? コロッケ? ケロッグ? みんな食い物に聞こえるあたし。なんでも、コンピュータが動くとき、各動作の基準になる信号を送る装置で、クロックが出す信号をクロック信号というらしい。(ひろみ)

●クロックは、CPUのスピードも決めている。同じ種類のCPUを使っている場合、クロック周波数が大きいほど、スピードも速くなる。ちなみに、初代98のクロックは、5MHz。対して、最新機種では、66MHzのものもある。使うほうの人間は、それほど進歩してないのに……。(編)



メモリー Memory

●直訳すると、思い出とか記憶って意味でしょ。データとか命令を記憶する部分じゃないのかな。(ひろみ)

●CPUと並んで、コンピュータの性能を決める重要なポイント。多いほどいい。(編)

RAM Random Access Memory

●メモリーのうち、記憶したデータを自由に読み出したり、書き込んだりできるもの。(ひろみ)

●データやプログラムは、普通、ここに入る。この容量が、モノをいうのだ。(編)

ROM Read Only Memory

●RAMと違うところは、書き込みができないところ。製造段階で書き込まれたデータを読み出して利用するものなんだって。読み出し専用ということ。(ひろみ)

●ゲーム機のカセットに入ってるのが、これですね。(編)

ユーザーズメモリー

●私たちが使えるメモリーってことなのかな。(ひろみ)

●思いっきり簡単にいえば、RAMの容量のこと。意味は間違ってないよ。(編)

フリーエリア

●また直訳しちゃうもんね。これは自由な場所のことだ。(ひろみ)

●……(あのな)。ユーザーズメモリーのうち、DOSなどのシステムが使う部分を除いた容量。この容量が少ないと、アプリケーションソフトが動かなかったりする。(編)

ビット Bit

●2進数の略で、情報量の最少数単位。情報量を表す単位としては、バイト、K(キロ)バイト、M(メガ)バイトと続く。もうちょっとツッ込むと、8ビットで1バイト、1024バイトで1Kバイト、1024Kバイトで1Mバイトとなる、……でいいんでしたよね。

　ということは、メガという単位がいちばん頭イイってことね。(ひろみ)

●ビットは、一度に処理できるデータの基本単位として使われることが多い。16ビットパソコンとか、32ビットCPUといったりするのが、それ。バイトは、メモリーやディスク容量の単位として使われる。(編)

インターフェース Interface

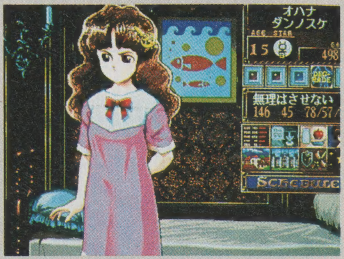
●資料を読んでも意味がわからないんですけど。(ひろみ)

●もともとは、「接点」という意味の言葉。パソコンの場合、本体と周辺装置をつなぐとき、その仲立ちをするのがインターフェースだ。具体的には、各周辺機器をつなげるための端子、その規格を含めて、すべてインターフェースという。これがないと、周辺機器がつながらない。わかった? (編)

ハードディスク Hard Disk

●これは固定ディスク装置ですね。金属性のディスクとドライブが一緒になってるもの。フロッピーに比べると、頭がよくて、スピードが速くて、容量も多い。でも衝撃に弱いから持ち運びに注意。欲しいなぁ、これ。誰か安く売ってくれないかなぁ。(ひろみ)

●枚数の多いゲームソフトも、HDに入れてしまえば、快適にプレイできる。だから、『プリメ2』をフロッピーだけでやるのは、無謀だっていったでしょ。(編)



CD-ROM Compact Disc Read Only Memory

●HDは金属性のディスクだったけど、これは光ディスク。データを記憶したり、専用のドライブを使って読み出すシステムのことをいうみたい。(ひろみ)

●これは間違い。音楽用のコンパクトディス

パソコンに関する専門用語って、どうしてこんなにわかりにくいものが多いんだろう？　──そんな疑問を胸に、コンピュータ音痴のライター、ワタクシ溝口ひろみが、大胆にも用語辞典に挑戦します。ああ、こんなことでいいの。編集さん、見捨てないでね。
＊（ひろみ）が溝口記述。（編）は担当編集者のオセッカイ。



クを、コンピュータの記憶装置として使ったもの。容量は、540Mバイトとかなり大きい。ROMだから、普通はデータの書き込みはできない。（編）

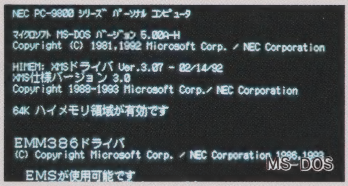
拡張スロット

●何かが入れるスペースがあることをいうのかな、よく、空港のスロット数なんていうもんね。（ひろみ）
●かすってるけれど、わかってないな。これは本体の裏（だいたいここにある）にある、差し込み口のこと。ここに、オプションのボード類を入れると、本体の機能をアップさせることができる。これが多いと、あとで融通がきくってわけ。あとメモリーやハードディスクなどは、専用のスロットを別に用意している機種が多いね。（編）

ソフトウエア

MS-DOS
Microsoft Disk Operating System

●資料には現在の代表的なOS（オペレーティング・システム）とある。MSはマイクロソフト社のことか。マイクロソフト社製のDOSということだけど、DOSはわからないので先生に聞いた。……なるほど。つまり、フロッピーディスクがない頃は、記憶装置としてカセットテープを使っていたと。で、ディスクを使うには、そのためのプログラムが必要だった。そこで、出てきたのがDOS。DOSのDは、ディスクだったのね。DOSの主なお仕事は、ファイルの管理をすることで、ディスクを読んだり、書いたりする。そのほか、コンピュータそのものもコントロールしているので、基本ソフトともいえるんだって。（ひろみ）
●ビジネスソフトはもちろんのこと、最近ではゲームソフトでもMS-DOSがないと動かないものが多いから、注意しよう。（編）



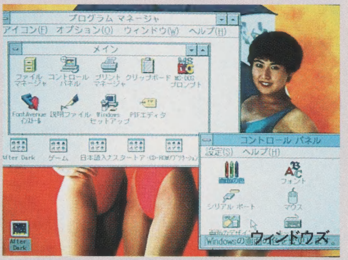
DOS／V

●IBM-PCとその互換機で使用できる、バイリンガルDOS。IBM-PCはもともと英語しか使えないけれど、これがあれば日本語が使えるようになる。なんとなくわかったかな？（ひろみ）
●世界標準機のIBM-PC（とその互換機）が、これで日本でも堂々と使えるようになった。とくに、安くて性能のいい互換機の存在は要注目。ただし、これで天下をとったような書き方をする雑誌もあるけど、現実はまだまだ少数派。（編）

アプリケーション
Application

●聞くところによると、コンピュータを仕事として使う場合のプログラムをいうんだって。たとえば、ワープロだとか表計算、グラフィックなどに使うソフトのことらしいよ。（ひろみ）
●OSのもとで動く、ある目的を持ったソフト。ゲームだって、立派なアプリケーションのひとつ。（編）

ウィンドウズ　Windows



●あたしにだってこれくらいはね。つまり、画面の「窓」ですよ。違うかな。その、だから、１つの窓を開いている上に、別の窓を開いたりして、別のファイルが見れるっていう、あれですよ。（ひろみ）
●それはウインドー。ウィンドウズといったら、場合、今流行の『MS-Windows』のことをいう。これは、ウインドーがたくさん開けて、複数のソフトも同時に実行できて、マウスで簡単に操作できて、そのくせ遅いマシンではちっとも使いものにならないという、IBM-PCやPC-98で動くマイクロソフトの最新OS。（編）

インストール
Install

●これがね、何度説明を聞いてもわからないんですよ。（ひろみ）
●ソフトを使える状態にすること。OSが入ってないソフトにOSを入れるのもインストールだし、ハードディスクに登録して、そこから動くようにするのもインストール。（編）

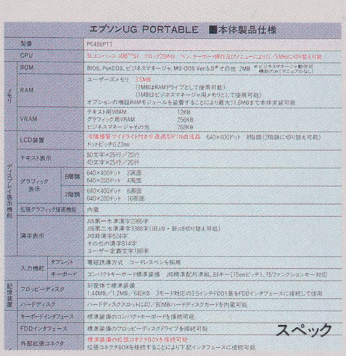
etc…

コンパチブル
Compatible

●エッヘン。これはだな、俗にコンパチ（パチンコじゃないよ）なんていうけど、互換性があるってことの意味なんだな。ハード同士が同じ機能を持っていることをいうんですね。（ひろみ）
●性能がアップしても、それ以前の機種用のソフト、周辺機器が使えることを、上位互換性（アッパー・コンパチブル）があるという。S-VHSとVHSの関係と同じね。（編）

スペック
Spec/Specification

●説明書やカタログに書いてあることをいうのかな。つまりハードウエア、ソフトウエアの機能や性能をいうんですね。（ひろみ）
●パソコンの場合、数字やカタカナの専門用語の羅列でよくわからない。これで、ごまかそうという意図が見え見え。雑誌の新機種紹介記事では、これを載せるとスペースが稼げるので便利。（編）



エプソンUG PORTABLE　■本体製品仕様

型番			PC486PT1
CPU			SLエンハンス i486™SX　クロック25MHz　ペン、キーボード操作及びメニューにより12／5MHzに切り替え可能
メモリ	ROM		BIOS、PenDOS、ビジネスマネージャ、MS-DOS Ver.5.0* その他　2MB　*ビジネスマネージャ動作用機能のみ（マニュアルなし）
メモリ	RAM		ユーザーズメモリ　3.6MB（1MBはRAMドライブとして使用可能）（1MBはビジネスマネージャ用メモリとして使用可能）オプションの増設RAMモジュールを装着することにより最大11.6MBまで本体実装可能
メモリ	VRAM		テキスト用VRAM　12KB　グラフィック用VRAM　256KB　ビジネスマネージャその他　768KB
ディスプレイ表示機能	LCD装置		冷陰極管サイドライト付き半透過型FTN白液晶　640×400ドット　8階調（2階調に切り替え可能）ドットピッチ0.23mm
ディスプレイ表示機能	テキスト表示		80文字×25行／20行　40文字×25行／20行
ディスプレイ表示機能	グラフィック表示	8階調	640×400ドット　2画面　640×200ドット　4画面
ディスプレイ表示機能	グラフィック表示	2階調	640×400ドット　8画面　640×200ドット　16画面
ディスプレイ表示機能	拡張グラフィック描画機能		内蔵
ディスプレイ表示機能	漢字表示		JIS第一水準漢字2965字　JIS第二水準漢字3388字（旧JIS・新JIS切り替え可能）　JIS非漢字524字　その他の漢字814字　ユーザー定義文字188字
入力機能	タブレット		電磁誘導方式　コードレスペンを採用
入力機能	キーボード		コンパクトキーボード標準装備　JIS標準配列準拠、84キー（15mmピッチ）、15ファンクションキー対応
記憶装置	フロッピーディスク		別筐体で標準装備　1.44MB／1.2MB／640KB　3モード対応の3.5インチFDD1基をFDDインタフェースに接続して使用
記憶装置	ハードディスク		ハードディスクスロットに40／80MBハードディスクカードを内蔵可能
	キーボードインタフェース		標準装備のコンパクトキーボードを接続可能
	FDDインタフェース		標準装備のフロッピーディスクドライブを接続可能
	外部拡張コネクタ		標準装備の拡張コネクタBOXを接続可能　拡張コネクタBOXを接続することにより下記インタフェースに接続可能

スペック

イラスト／武田うずら

EYESONLY

年末ハード購入計画



POPCOM1月号
第2付録